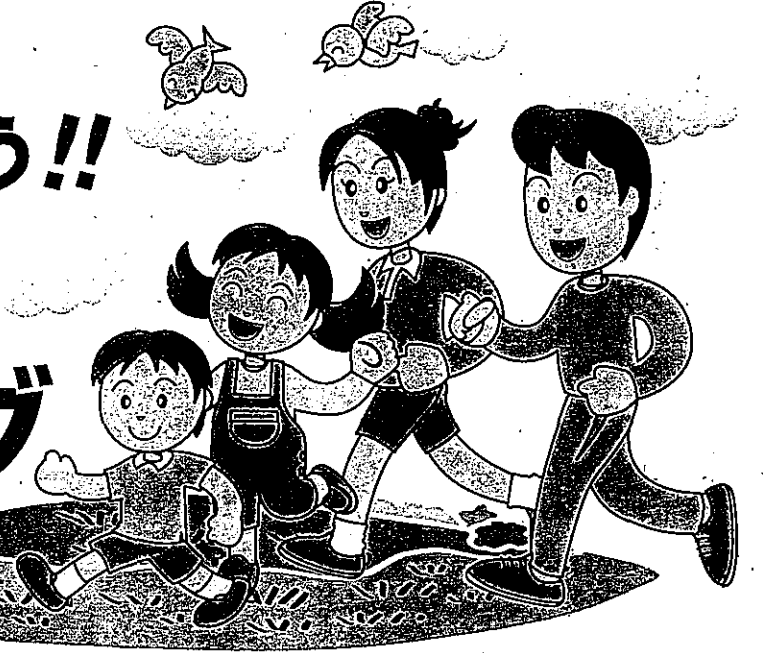


健康 学ぶ 再発見

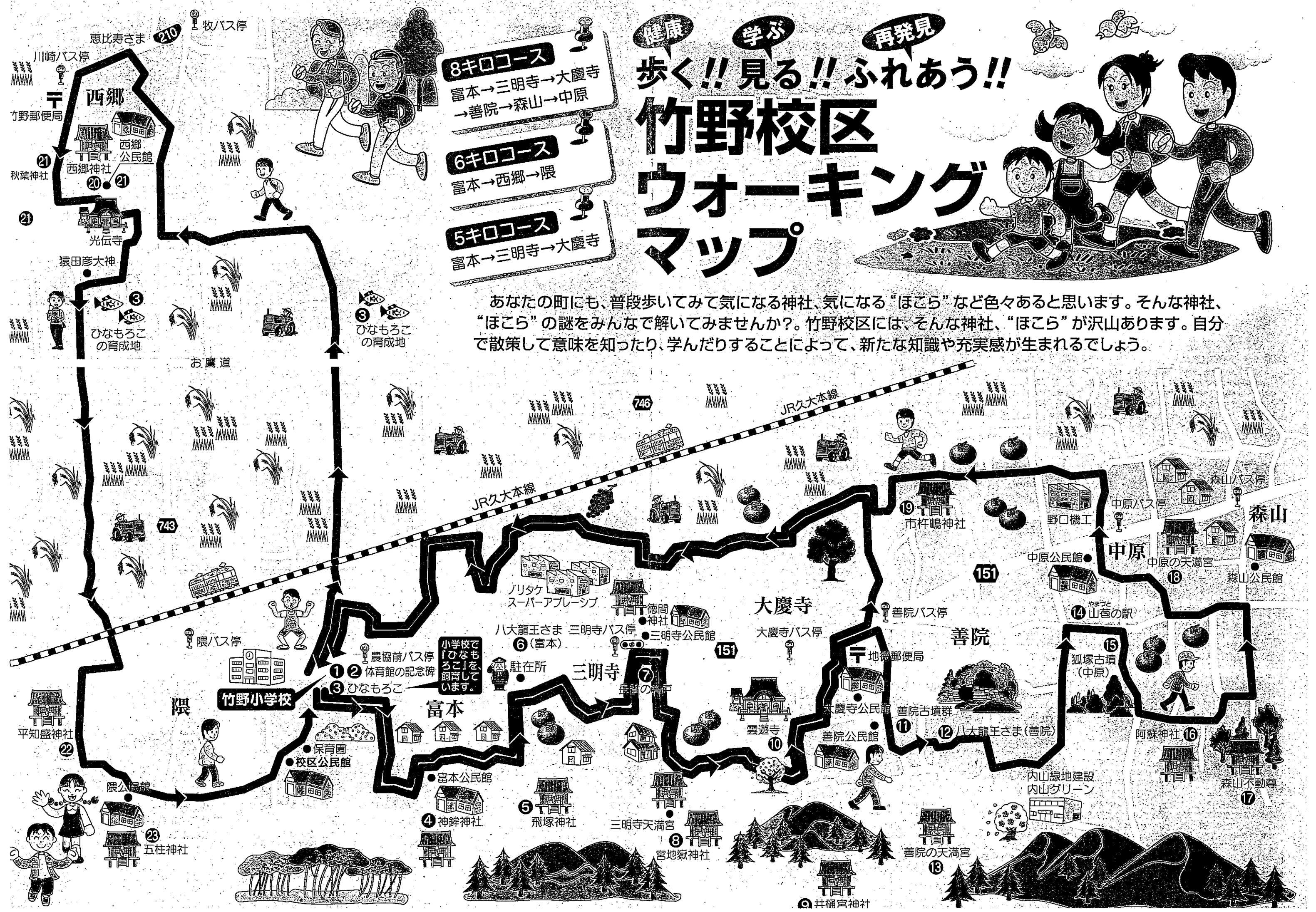
歩く!!見る!!ふれあう!!

竹野校区ウォーキングマップ

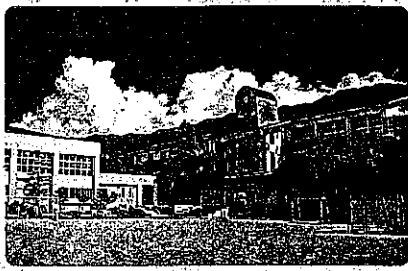


- 8キロコース**
富本→三明寺→大慶寺
→善院→森山→中原
- 6キロコース**
富本→西郷→隈
- 5キロコース**
富本→三明寺→大慶寺

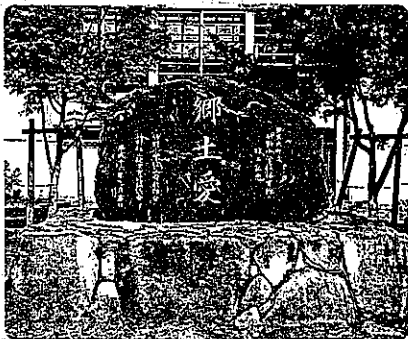
あなたの町にも、普段歩いてみて気になる神社、気になる“ほこら”など色々あると思います。そんな神社、“ほこら”の謎をみんなで解いてみませんか？竹野校区には、そんな神社、“ほこら”が沢山あります。自分で散策して意味を知ったり、学んだりすることによって、新たな知識や充実感が生まれるでしょう。



歩く!!見る!!ふれあう!!
竹野校区
ウォーキングマップ



1 竹野小学校(富本)
竹野小学校体育館改築工事の際、奈良から平安時代の集落跡が発見されました。かつての竹野郡の中心の役所跡(竹野郡衙)に関連する集落ではないかと推定される場所です。今では竹野校区の中心であり、子供たちの成長と竹野校区の繁栄を見守っています。いつも、明るく元気一杯な笑い声が聞こえてきます。



2 竹野小学校体育館の記念碑(富本)
平成16年に新設された体育館を祝って建てられた記念碑には「郷土愛」と文字が刻まれています。竹野に生まれ育ったことを誇りに思っていることへの願いがこの碑に込められています。



ひなもろこ
「ひなもろこ」は、全長6~7cmになるコイ科の淡水魚で、朝鮮半島や中国東北部に分布し大陸と九州が陸続きであったことを示す生物地理学上重要な生き物です。環境省の絶滅危惧種に指定され、国内では平成6年に竹野小学校の児童が発見以来、他の地域での生息は確認されていません。平成7年には旧田主丸町の天然記念物に指定され、地域住民や小学校、県、市、「ひなもろこ」繋ぐの会などの関係団体等が協力し、「ひなもろこ」を将来にわたって守る活動を続けています。

3 ひなもろこ
と九州が陸続きであったことを示す生物地理学上重要な生き物です。環境省の絶滅危惧種に指定され、国内では平成6年に竹野小学校の児童が発見以来、他の地域での生息は確認されていません。平成7年には旧田主丸町の天然記念物に指定され、地域住民や小学校、県、市、「ひなもろこ」繋ぐの会などの関係団体等が協力し、「ひなもろこ」を将来にわたって守る活動を続けています。



4 神鉾神社(富本)
ある夜、村の東南の岩窟が、震動と雷光がきらめいた後、山腹の岩の上に金鉾が一本たっていたので社殿をつくり、これをまつり金鉾大神と称した。その後、神鉾が所在不明となったため、空殿となっていたが、新たに木像を作って殿内に安置したと云われています。創建は不明、延宝2年(約1674年)新たに神像を造り安置した。祭神は八千矛神。



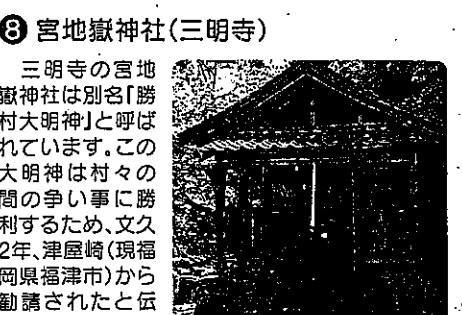
5 飛塚神社(富本)
高台にあり風光明媚で堤の辺に位置し、春は桜とつつじの花で有名です。地元の人々に安らぎと心の憩いを与えてくれる神社として親しまれています。同神社は、1400年以上の歴史があり、祭神として菅原道真公が祭られています。「いぼ=ガン」の神様としても信仰を集めています。以前「いぼ」のできた人がお参りしたところ、たちどころに治ったことで、お礼参りとして自分の年の数だけ豆を奉納する慣わしが有るそうです。社殿の下は古墳であると推定されています。神鉾神社の縁起に見られる轟動する岩窟は当社のことか。



6 八大龍王さま(富本)
八大龍王さまは、昔から雨乞いの神さまとして奉られており、地元の人々から愛されていて今も「足元ご用心」と声を掛け合ってお参りをするのが慣わしです。



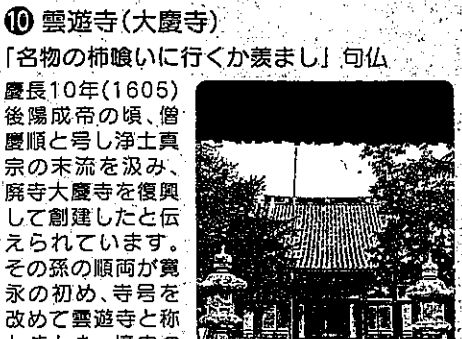
7 長者の井戸(三明寺)
和銅6年(713)筑後国の国司として赴任した道君首名(みちのきみのおびと)公の子孫が、竹野の長者と尊ばれ住んだと伝わり、本丸、二の丸、井の丸などの地名が残っています。現在長者の井戸と観音堂が残っています。この長者の井戸は、かつて清冷玉のような清水が湧き出し水をくむ人が昼夜絶え間なかったそうです。筑後隔一の井戸と言われていました。



8 宮地嶽神社(三明寺)
三明寺の宮地嶽神社は別名「勝村大明神」と呼ばれています。この大明神は村々の間の争い事に勝利するため、文久2年、津屋崎(現福岡県福津市)から勧請されたといわれています。村々の争い事とは、薪取りや秣場(まぐさば)の入会、谷の水利用など、利害対立に際して、利害が共通する村々が共同で利益を守り、相互の団結心を養う必要から祭りも共同で行なうなど、この大明神はこの地域の近世のムラの生活の中心をなしていたそうです。



9 井樋宮神社(大慶寺)
祭神は天穂日命(あめのほひのみこと)。イザナギノ尊とイザナミノ尊が祀られています。この麓のお宮を井樋宮の下宮と云われ、山頂には小さな石の祠が祭られており、こちらを井樋宮の上宮と云われています。地元の大慶寺の人々は、この山頂の祠を「井樋権現」と呼び、今もなお祭りが行われています。



10 雲遊寺(大慶寺)
「名物の柿喰いに行くか羨まし」句仏
慶長10年(1605)後陽成帝の頃、僧慶順と号し浄土真宗の末流を汲み、院寺大慶寺を復興して創建したと伝えられています。その孫の順阿が寛永の初め、寺号を改めて雲遊寺と称しました。境内の鐘楼のわきの小高い処に上記の大谷句仏上人の句碑があります。



11 善院古墳群(善院)
善院の集落内には8基の古墳が確認され、善院古墳群を構成しています。この1号古墳は標高45m程の場所にあり、6世紀後半に造られたものと見られ、直径17m前後の円墳であったと考えられています。石室は良好に保存され、複室構造の横穴式石室になっています。善院古墳群は、やや古い石室形態を示し、墳丘径が25mを超える4号墳や、巨石を用いた8号墳、石室に石欄を持っていたとされる7号墳など、特徴的な古墳が見られます。



12 八大龍王さま(善院)
昭和初めの頃の夏、野良仕事で帰りに雨にあい、濡れた着物を着たまま電灯の下で、わが子に乳を飲ませていた親子に雷が落ち、悲運にもその親子は亡くなったそうです。八大龍王さまは、その親子の霊を弔うため建立されたもので、善院集落では今でもおこもりが行われています。



13 善院の天満宮(善院)
鎮座地は田主丸町地徳の姥ヶ城で、祭神は菅原道真です。創立年代は不詳とされ第九十七代後村上天皇の興国2年2月(686年前)に祭祀されたのが始まりとされています。寛文4年9月(364年前)神宮を再建し、文政11年に拝殿を再建。昭和の年代に至り神宮が修築されています。地方の古社にして氏子をはじめ地元民の篤く崇敬する処であるといわれています。



14 山苞の駅(中原)
平成19年3月にオープンした山苞の駅で、公衆トイレと「あずま屋」ならびに山苞関連の情報コーナーも有した施設です。山苞の道とは、耳納連山の麓、豊かな自然の中を5.7キロにわたって続く「みち」のことで、「苞」はつらに包まれたみやげ物の意味があり山に包まれた自然からのみやげ物の多い道との意味で名付けられました。



15 狐塚古墳(中原)
石室は石材が露出し、天井石の一部は崩落しており保存状況は良好とは言えません。本来は直径19mの円墳であったと見られ、内部の石室は複室構造の横穴式石室で、装飾は同心円文を中心として三角文・穀(矢を入れる道具)・船・人物等が壁面下半ほぼ全面に描かれており、具象的な図文は、耳納山麓の装飾古墳の中でも秀逸で、貴重な文化財であると云えます。この古墳の築造された時期は、6世紀の後半と考えられています。



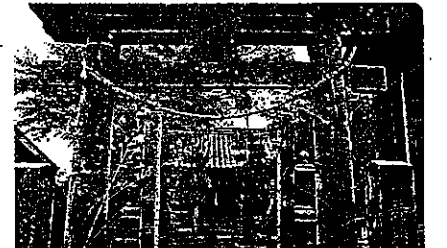
16 阿蘇神社(森山)
建齋道命(たけいわたつのみこと)を祀る神社で、「なます」の石像があります。数百年前の昔から大きな雌雄2尾の「白なます」がいて森山区の氏神様とされ、阿蘇神社の使者として奉られているため、昔から森山の人は絶対に「なます」を食しないと云われています。又、神社裏には市の天然記念物に指定され威風堂々の阿蘇神社の楠(高さ23m、幹周7.8m)があります。



17 森山不動尊(森山)
伝承によれば、和銅元年(708年)行基は元明天皇の勅命を受け、歴代天皇守護の霊像を携え諸國を廻り足白山(耳納山)の麓に石垣山観音寺建立の地として定めました。行基は建立に先立ち、高丸嶺の麓(当所)で大願成就のために百ヶ日の間滝に打たれ、自ら不動明王の像を彫刻して安置したそうです。そのため祈願したこの地を護山といひ、後に森山と改められた。なお、境内にある観音像は平成21年に建立されています。



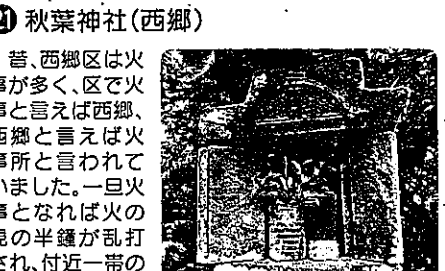
18 中原の天満宮(中原) 天井絵
社伝によれば、西暦1341年、97代後村上天皇の御代に建立され、以来、神宮の再建を繰り返しながら現在に至っています。特筆として1828年の拝殿再建時は、彫刻を多様する他、格天井一面には絵画が施こされ、現在でも見事な天井絵を目撃することができます。祭神は菅原道真です。



19 市杵嶋神社(大慶寺)
祭神は「市杵嶋姫命(いちきしまひめのみこと)で、福岡県の宗像大社や広島県の厳島神社の御祭神として有名です。開運、安産、縁結びにご利益があるそうです。境内には、別にカラト神社とよばれる御神体が無い不思議な石祠が奉られてあります。



20 西郷神社(西郷)
西郷氏は昔から崇敬の念厚く、地区毎に神社を建立して信仰特に深く、綾野区、松崎区、五名区には天満宮。吉富区には老松宮、浮地区には徳満宮。猪ノ口には豊沙門天等々があつたが、後年これらを綾野天満宮の敷地に合祀するに至りました。よって現在西郷神社は中央一ヶ所となり、天満宮、加藤神社を主体として諸神の合祀に成る文武両道の神であり、仁徳義勇の兼備の神社です。



21 秋葉神社(西郷)
昔、西郷区は火事が多く、区で火事と言えば西郷、西郷と言えば火事所と言われていました。一旦火事となれば火の見る半鐘が乱打され、付近一帯の区民は提灯に火を灯し、これを高く掲げて小橋を持って掛声勇ましく火事場に集まり「テングドリ」で水をかけ消火にあたったことと云います。そこで区民は相談の末、三区(東、北、南)にそれぞれ秋葉神社を建立することになりましたが、それ以来、西郷区の火事もなくなったそうです。



22 平知盛神社(隈)
知盛神社縁起によると、寿永4年(1185)、頼朝の合戦に敗れた安徳天皇とご生母(徳子)及び平知盛以下、平家の公達は入水して果てたと歴史書には書してありますが、知盛は何かして平家の再興を念願し、草野町吉木にある竹井城の草野氏を頼って当地まで落ち延びて来ましたが、すでに草野氏は源氏方に味方していたため、草野氏の家老に滅ぼされたこと記述されています。



23 五柱神社(隈)
隈のお宮のご祭神は伊勢宮(天照大神)、天満宮(菅原道真公)、熊野宮(須佐彦男神)、平宮(崇徳天皇)、若宮宮(仁徳天皇)の神社が隈の各地に鎮座されておりましたが、明治45年4月、本社に合祀したことにより五柱神社と言うようになったそうです。